

会 議 録		令和6年7月4日作成	令和10年3月末日廃棄
会議名	京都府山科警察署協議会（令和6年度第1回）		
開催日	令和6年6月21日（金曜日）		
時 間	午後2時55分から午後4時45分までの間（110分）		
場 所	京都府山科警察署 署長室		
出席者	古川会長、西川副会長、山下（明）副会長、川中委員、西村委員、 浦野委員、角田委員、有本委員、山下（恒）委員、樋口委員、井内委員、 三谷委員、園部委員 計13人		
	署長、副署長、会計課長、警務課長代理、生活安全課長、地域課長代理、 刑事課長、交通課長、警備課長 広聴・相談係長 計10人		
諮 問 事 項	山科警察署管内の治安情勢について		
会 議 内 容	1 会長挨拶	司会	副署長
	2 署長挨拶		
	3 協議	司会	会長
	諮問事項説明 山科警察署管内の治安情勢について～生活安全課長		
	【委員】保護された認知症の人が発見されるのは、どのような場所か。		
	【警察】路上が多いが、自ら交番に来られる方もいる。 お店の方などから「お客さんの様子から認知症の方かもしれない。」 という通報を受けて発見することもある。		
	【委員】家族からの通報もあるのか。		
	【警察】家族から「いつもは夕方になれば帰って来るのに、夜になっても帰 って来ない。」という申出を受けて、探し始めることもある。		
	【委員】私の祖母も認知症で横に付いて歩くと怒るので先に歩かせている。 きちんと横断歩道を渡り、信号も守るが、昔住んでいた家まで行き、 途中で道が分からなくなる。		
	【警察】家族からは「あまり歩けない。」と聞いていたが、かなり遠くまで 歩いた方もおられた。		

会 議  
内 容

【委員】 その場合、途中で店に寄って飲み物や食べ物を買ったりするのか。

【警察】 自ら飲み物等を購入することは難しい場合が多く、気候にもよるが、暑い中であれば脱水症状になりかねず、急いで捜す必要がある。

夜になって「いなくなった。」と言われると、捜しにくいですが、逆に、夜に高齢者の方がウロウロされていることに心配して通報が入る場合もある。

【委員】 自分では目的地があって、そこに向かって歩いているのか。

【警察】 頭の中では目的地があると思うが、向かっている途中から分からなくなるのではないかと思われる。

【委員】 冬の夜中12時に、自宅近くで認知症の高齢女性を保護したことがある。パジャマにスリッパでウロウロされており、声を掛けると「今から金閣寺までお参りに行く。」と言われ、交番に通報した。

【警察】 靴に位置情報が分かる物を埋め込んでいる方もいるが、そのような方はほとんどおられないので、何の情報もないケースが多い。

【委員】 連絡先が分かるように、名札を付けておられる方もいる。

【警察】 当署管内でも、年間で約50回保護をされている方がおられる。取扱いが多い方であれば、身元も分かっており、家族に連絡しやすい。

【委員】 警察に保護された方は、その後どのような措置をされるのか。

【警察】 家庭環境にもよるが、息子さんなど、一緒に住んでいる方や、高齢夫婦の家庭でも、配偶者がしっかり面倒を見てくれるのであれば、家まで送り届けたり、家族に迎えに来てもらい、保護した状況を伝えている。

一人暮らしの場合には、家族の方と連絡が取れて「後で見に行きます。」と言ってもらえれば、自宅まで送り、家に入るのを見届け、家族に任せることもある。家族に連絡が取れない場合は、地域包括支援センターに連絡をすることもある。

昨日、地域包括支援センターの方と話をする機会があったが、やはりそういった連絡を受けるケースが増えていると話されていた。

【委員】 逮捕された少年の半分以上が、過去に親から虐待を受けていたと聞いたことがあり、家庭環境が少年に犯罪を犯させる傾向があるのではないか。

表面的には、犯罪を犯す少年が悪いように思われるが、その少年も親から虐待を受けていた被害者である。

また、その親も虐待を受けて育った可能性があり、断ち切れない負の連鎖があるのではないか。

私の子供が通っている小学校では、毎年11月頃に厚生労働省が作った虐待防止のチラシを一斉配布しているので、親御さんに是非見ても

会 議  
内 容

らいたい。

少年非行を防止するために地元でパトロールなどを行っているが、虐待に焦点を当てるほうが非行防止には効果があるのではないか。

最近では、警察、学校、児童相談所が連携して虐待の情報を共有しているようだが、これまでは守秘義務の関係で情報共有ができなかったと聞いている。

【委員】学校は、児童相談所と密に連携を取っているが、学校の限界として、家庭の状況を変えることはできない。

【委員】虐待がエスカレートした際、児童相談所から連絡を受けた警察が家庭内に踏み込むことはできるのか。

【警察】基本的に、虐待対応で家庭内に立ち入る権限は、児童相談所が有している。ただ、家の中から「痛い、やめて。」という悲鳴が聞こえるなど、犯罪がまさに行われようとするのを認めた場合、警察官職務執行法により、警察官は家の中に立入り、犯罪を制止することができる。

また、犯罪行為に対する捜査のためであれば、裁判官が発した令状により、警察官は家の中に入ることができる。

【警察】警察としては、地域の方が児童虐待に目を向け、警察に通報してもらえれば、大変有り難い。

【委員】児童虐待は、子供の年齢が低いほど家庭内での逃げ場がなく、毎日が地獄だと思う。

虐待を人に訴えようとしても、その人が信頼できるかどうか分からず、また、訴えたとしても親が注意を受けたり、訴えられたことを親に言われた場合、虐待がエスカレートしかねず、いずれは自分に返ってくることになる。自分の居場所がなく、助けてくれる人もいない状況になれば、非行に走るという悪循環になるのではないか。

先日、自宅の近くで、10代の子供が電車で飛び込み亡くなられた。どのような理由で自殺されたか分からないが、親が守ってくれない、親と話が通じない、親から虐待を受けていることで、自ら命を絶つこともあるのではないか。大人として、してあげられることはないだろうか。

【警察】児童虐待の通報件数は増えているが、小さな子供の場合では、虐待を受けている認識がなく、潜在化、長期化しやすい傾向にある。

警察としては、児童虐待のおそれがある事案を把握すれば、児童相談所に全件通報して対応している。

【委員】非行に走る少年については、その背景を考えて、その子たちの居場所や環境などが改善される取組をしていただきたい。

【警察】警察が少年を逮捕することについては、ネガティブなイメージを持

会 議  
内 容

たれる方が多いと思うが、家庭環境を含めてしっかり考え直す機会をつくることができる。きちんと環境を作り直してあげられるのは今しかないということを逮捕した少年の親にも説明している。

逮捕される少年のためになるものと考えている。

【委員】逮捕されて警察官に説諭され、先生や親からも叱られて、人間的に成長するのもいいのではないか。

【警察】今の家庭環境から1回切り離さないといけないと思う少年がおり、中には、今の家庭環境から離れなければならないと自覚している少年もいる。ずっと悪いことばかりしていた少年を逮捕すると「自分でも、このままやったらあかんと思っていた。」と言うこともある。

【委員】鑑別所の見学に行った際、職員の人たちも「この子たちは困らせているのではなく、この子たちが困っている。」と言っておられ、どうしたらこの子たちが生きやすい世の中になるのかと思いながら見学した。

【委員】普通、少年事件で初犯の場合には軽い罰で済むことが多く、初犯で少年院に入るケースは少ないが、最近では、特殊詐欺事件の受け子をして逮捕された少年で、組織全体としてだまし取った金額が多い場合、初犯でも少年院に入るケースが増えていると聞いたことがある。

【警察】その少年の状況や家庭の状況を見て、しっかり判断していると思われる。

【委員】刑務官から、受け子をせざるを得ない状況に追い込まれた際、「初犯だから逮捕されても大丈夫、すぐに出て来られる。」と言われ、軽い気持ちで受け子をやってしまうと聞いた。

【警察】受け子をする者は、上部の言うことを本当に信じている。

受け子を逮捕したときに「自分に指示を出していた人物に連絡できれば、腕のいい弁護士に連絡をしてくれ、すぐに釈放される。」と言う少年もおり、受け子もだまされていると感じることがある。

ただ、上部が受け子をだましていたことは間違いないが、受け子も、自分にそう言い聞かせて悪いことをしている。高齢者から大金を受け取れば、高齢者が困ることは分かっていたはずであり、受け子が被害者だとは思わない。

闇バイトなどで受け子をするようになった者もいるようである。

【警察】闇バイトに申し込むと、免許証の写真を送らされたり、親の住所や連絡先を言わされる。

「辞める。」と言うと「親がどうなってもいいのか。」などと脅され、抜けられない状況に追い込まれるため、闇バイトに応募しないことが大事である。

会 議  
内 容

生活安全課による高校生対象の防犯教室でも、闇バイトについてしっかり教養をする必要がある。

【警察】 実際、受け子が送った免許証の写真に「こいつは金を持って逃げているぞ。」と書き込まれ、受け子の実家周辺の家にはFAX送信されたケースもあったため、絶対に関わりを持ってはいけない。

【委員】 どのようにして子供が受け子をするようになるのか。

【警察】 以前の調査で、1番多かったのが、SNSで応募したというもので、2番目が知り合いから誘われたというものであり、非行少年同士のネットワークが原因となる場合もある。

【警察】 最初はアルバイト感覚の軽い気持ちで入っていくが、それが段々抜けられなくなっていく。

【委員】 スマートフォンなどの端末を利用すれば、キーワード一つで何でも気軽に検索できるようになっており、端末が全ての入口になっている。

【警察】 誰にでもメッセージや情報を届けることができ、誰でも情報を受け取ることができて便利であるが、悪用もされる。

【委員】 受け子に対し、上部の者が「高齢者は大金を持っている。給料の安いお前たちが高齢者からお金を取っても大丈夫。」などと言い含め、罪悪感をなくしているようなことはないのか。

【警察】 「大金のあるところから、少しくらいのお金を取っても大丈夫。」という気持ちでいるのかもしれないが、実際にそのような指示をしているのかどうか分からない。

【委員】 ロマンズ詐欺が増加しているとのことだが、私の感覚では一昔前に流行った、外国の貴族や軍人を名乗る詐欺のように思うが、今の若い人はどのような手口でだまされるのか。

【警察】 まさに今言われた手口でだまされる。

先ほど、2,900万円のロマンス詐欺被害について説明したが、このときは、海外の女性医師を名乗っていた。このように、外国人を名乗る相手にだまされる詐欺被害が目立っている。

【委員】 だまされるのは、年配者が多いのか。

【警察】 年配の被害者も多いが、30代から40代の女性の被害者も多く、全世界的に、また、男女を問わず被害者がいる。

【委員】 私も詐欺被害に遭いかけた。

アメリカの軍人を名乗る女性と、Facebookで交流していたが、お金の話が頻繁に出てくるようになったので、これは詐欺だと思って連絡を取れないようにした。

Facebookでは、このような手口の詐欺や投資詐欺が多い。

【委員】 具体的にどのようなお金の話になったのか。

会 議  
内 容

【委員】 戦地にお金を持ってきてテントの中に置いているが、しばらくお金を置いた状態で出掛けねばならず、心配なのでお金を預かってほしい。持ってきているお金を日本に送るが、送料が 200万円かかるので、送料を出してほしいというものだった。

【警察】 そのような手口の詐欺が多い。

【警察】 ロマンズ詐欺でだまされる方は、相手を信じ込んでいる。長期間やりとりを続けることもあると聞いている。

【委員】 外国人とやりとりする文面は、どのようなものになるのか。

【警察】 日本語だと思われる。日本に興味があり、日本語を勉強しているとか、日本に住んでいたことがあるという文言の文面を見れば、片言の日本語にも違和感がなく、信じてしまうのではないかと思う。

【委員】 ペットの写真をInstagram でアップした際、「かわいいね。」と連絡をくれた人が、外国の女性で軍人だと言っていた。

片言の英語でやりとりをしていたが、しつこく時間を作れないかと言ってくるため、「しばらく連絡できない。」と言うと、しつこく理由を聞かれ、凄く圧を感じた。

私は怖くなって連絡を断ったが、もしかしたら、その後で金銭の話が出ていたかもしれず、今軍人の話が出てドキッとした。

軍人と言われ、興味を持つこともあり、見極めが大事だと思う。

【委員】 送料を送ってほしいと言った軍人も「いずれは日本に住みたい。日本に住んだ時に、預けた 2,000万円を返してくれればいい。」「娘が日本に住んでいる。」などと言っていた。

【委員】 ニュース等で、詐欺被害について毎日のように取り上げられているが、なぜ被害が収まらないのか不思議である。

【警察】 特殊詐欺であれば、防犯機能付き電話機を設置するなどの対処方法があるが、スマートフォンを利用するロマンス詐欺では対策が難しく「ロマンス詐欺に注意しましょう。」と広報啓発を行い、注意喚起をしている。

【委員】 キャッシュカードをすり替えて交付させる手口があると聞いたが、暗証番号を知らなければ、お金を引き出すことはできないのではないのか。

【警察】 そのとおりである。ただ、銀行員を名乗るなどして暗証番号を聞き出すことが多い。

防犯教室では色々な詐欺の手口について説明をするが、覚えきれないため、「お金の話が出たら詐欺だと疑う。」とか「銀行員が暗証番号を聞くことはないため、暗証番号は誰にも言ってはいけない。」など、シンプルな言葉で詐欺に気が付く切っ掛けを作れるように説明してい

会 議  
内 容

る。

【委員】 高齢になり、判断能力が衰えたり認知症が加わると、言われるがままになると思うので、だます方もそれを狙っていると思う。

【委員】 防犯機能付き電話機が、特殊詐欺被害防止には凄く効果的だと説明を受けた。

【警察】 効果は高い。普通の電話機よりも値段が高く、その意味では投資が必要になると思うが、投資額と被害額を比較すると、非常に安い投資額だと言える。

【委員】 先日、病院でマイナンバーカードを診察券にする登録場所に並んでいた際、前にいた高齢女性が「私の暗証番号は〇〇で、銀行のカードも全部同じ暗証番号にしている。」と、大声で病院の職員に言っており、職員の方が慌てて制止されていた。

高齢者は、暗証番号の危険性に対する認識が甘い気がする。

【委員】 社会福祉協議会の役員をしており、民生委員の方たちとのグループLINEがあり、アポ電などの情報があれば、グループLINEで情報共有するようにしている。

【警察】 色々な場所で、色々な人が声を掛け合うこと大事である。

詐欺の手口を知ってもらうことも大事だが、自分の身に起きた際、自分では気が付かないこともあると思うので、周りの人に気が付いてもらえるようにするなど、防犯機能付き電話機のように物理的に予防し、気が付く切っ掛けをより多く作ることも大事である。

以前から行われている対策ではあるが、電話機に「詐欺電話に注意」と書いたポップアップを貼り付けておくという簡単なことをするだけでも、詐欺の電話がかかってきた際、そのポップアップが目に入り、「あれっ、もしかしたら」と思うかもしれない。そういった単純なことの方が、大きな効果を発揮するのではないかと思う。

4 事務連絡

令和6年度第2回京都府山科警察署協議会の開催日程は、令和6年9月上旬に実施予定とする。

以上

## 第1回京都府山科警察署協議会の開催状況

